

問1-1 あなたの年齢についてお答えください。

20歳以上 25歳未満	25歳以上 30歳未満	30歳以上 35歳未満	35歳以上 40歳未満	40歳以上 45歳未満	45歳以上 50歳未満	50歳以上 55歳未満	55歳以上 60歳未満	60歳 以上
0	29	96	93	94	60	55	46	39

〔有効回答者数 / 回答者数〕 = 〔512 / 515〕

問1-2 あなたの性別についてお答えください。

女性	男性
51	460

〔有効回答者数 / 回答者数〕 = 〔511 / 515〕

問1-3 あなたの所属機関の分類についてお答えください。

大学	公的研究機関	民間企業
489	12	14

〔有効回答者数 / 回答者数〕 = 〔515 / 515〕

問1-4 所属機関におけるあなたの立場についてお答えください。

教授	助教授・ 講師	外部から の派遣	その他	助手	主任 研究員	部長	研究員	技術員
144	177	1	9	143	3	1	31	6

〔有効回答者数 / 回答者数〕 = 〔515 / 515〕

問1-5 所属機関におけるあなたの任期についてお答えください。

終身雇用	毎年更新	任期(3年以内)	任期(5年以内)	任期(5年超)	その他
349	25	19	79	17	21

〔有効回答者数 / 回答者数〕 = 〔510 / 515〕

問1-7 あなたの主な研究分野についてお答え下さい。最も近い項目の番号を1つお選び下さい。

**分野:**

生物系：生物学、生化学、微生物、分子生物、遺伝子、臨床医学、免疫、神経、薬理学、動植物、農学、エコロジー・環境など

化学系：化学、材料科学、化学工業

工学系：電気工学、機械プロセス、建設、エネルギー原子力

その他：物理、天文物理、地球科学、数学

生物系	化学系	工学系	その他
213	115	78	98

〔有効回答者数 / 回答者数〕 = 〔504 / 515〕

問2-1 昨年度1年間(2003年4~2004年3月)の論文公表数及び学会発表回数についてお答えください。

#### 論文公表数

		0回	1回	2回	3回	4回
全体		52	85	65	63	12
雇用	終身	25	49	38	45	36
	任期	26	34	25	17	12
	無回答	1	2	2	1	0
		5回	6回	7回	8回	9回
全体		49	25	13	12	5
雇用	終身	30	22	12	11	5
	任期	19	2	1	1	0
	無回答	0	1	0	0	0
		10回	11~15回	16~20回	21~25回	26回以上
全体		21	22	8	4	8
雇用	終身	16	21	6	3	7
	任期	4	4	2	1	1
	無回答	0	0	0	0	0

〔有効回答者数 / 回答者数〕 = 〔485 / 515〕

#### 学会発表回数

		0回	1回	2回	3回	4回
全体		35	58	62	54	40
雇用	終身	16	28	41	32	31
	任期	16	28	20	22	9
	無回答	3	2	1	0	0
		5回	6回	7回	8回	9回
全体		42	22	12	18	8
雇用	終身	30	15	9	12	8
	任期	12	7	3	6	1
	無回答	0	0	0	0	0

		10回	11～15回	16～20回	21～25回	26回以上
全体		32	37	23	11	30
雇用	終身	19	34	18	11	23
	任期	12	2	5	0	7
	無回答	1	1	0	0	0

〔有効回答者数 / 回答者数〕 = 〔485 / 515〕

問2-2 あなたは、これまで特許出願をした経験がありますか。

		ある	ない
全体(N=499)		206	293
機 関 (N=499)	大学	197	276
	公的研究機関	3	9
	民間企業	5	9
雇 用 (N=493)	終身	153	185
	任期	51	104
分 野 (N=499)	化学系	62	49
	生物系	72	135
	工学系	36	43
	その他	35	67

〔有効回答者数 / 回答者数〕 = 〔 N / 515 〕

問2-3 過去3年間でご自分が発明者となっている特許出願件数(国内・外国出願)を種別毎にご記入ください。ただし、外国出願において、同じ技術などを2か国以上に申請したときは、2か国以上の出願をまとめて1件として下さい(不明であれば空欄でも可)。

2001-2003年度国内特許出願件数

出願件数(件)		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10～
全体		52	62	32	17	7	7	12	5	3	4	4
機 関	大学	49	59	32	15	7	7	12	5	3	4	4
	公的研究機関	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	民間企業	2	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0
雇 用	終身	37	43	28	12	6	6	9	4	1	3	3
	任期	14	19	4	5	1	1	3	1	2	7	1
	無回答	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
分 野	化学系	12	11	12	3	3	4	7	0	3	3	3
	生物系	26	29	11	4	3	1	2	0	0	0	0
	工学系	6	8	5	4	1	2	3	4	0	1	1
	その他	8	14	4	6	0	0	0	1	0	0	0

## 2001-2003 年度外国特許出願件数

出願件数(件)		0	1	2	3	4	5~
全体		153	32	10	6	3	1
機 関	大学	149	29	9	6	3	1
	公的研究機関	1	2	0	0	0	0
	民間企業	3	1	1	0	0	0
雇 用	終身	119	24	5	3	1	1
	任期	33	8	5	2	2	0
	無回答	1	0	0	0	0	0
分 野	化学系	42	17	4	2	1	0
	生物系	55	7	3	2	2	0
	工学系	25	5	2	2	0	1
	その他	31	3	1	0	0	0

〔有効回答者数 / 回答者数〕 = 〔184 / 206〕

問2-4 研究成果の公表と特許出願に関して、最近のあなたの方針についてお答え下さい。

		研究成果公表の 前に、特許化で きるものは必ず 特許出願を検討	研究成果を公後、 特許法の新規性喪 失の例外規定を援 用して特許出願	研究成果について 特許を取得するつ もりはないため、 公表している	その他	
全体(N=484)		179	45	203	57	
雇 用 (N=480)	終身	114	36	135	46	
	任期付	65	9	64	11	
所 属 (N=484)	大学	167	45	193	53	
	公的研究機関	3	0	6	3	
	民間企業	9	0	4	1	
分 野 (N=484)	化学系	47	15	35	10	
	生物系	80	9	94	21	
	工学系	27	14	28	6	
	その他	25	7	46	20	
特 許 出 願	ない		51	12	180	39
	あ る	全体	126	32	22	18
		0-5 件	99	27	22	15
		5-10 件	24	1	0	3
		11-15 件	1	4	0	0
		15 件-	2	0	0	0

〔有効回答者数 / 回答者数〕 = 〔N / 515〕

その他 :

- 特許にする価値のある研究については、公表の前に特許化する
- 大学や所属科の方針に従っている
- 大学の研究者が特許を出願する意味はないと考えている。これまでも特許の可能性があっても民間企業にアイデアを譲渡している。
- 現在の学生の学位取得制度と特許出願は背反する
- 職種の問題により、自由な研究が妨げられている
- 単独で行う研究の場合は3とするが、共同研究の場合は相手の企業方針に従う
- 企業との共同研究のみ権利化を検討。それ以外は原則速やかに公表しています
- 研究分野が特許と無縁である
- これまで考えたことがなかった

問2-5 これまで研究成果がでた場合、特許出願が可能かどうかを検討したことがありますか。また、誰かと相談を行った場合は、その相談相手についてもお答え下さい(複数回答可)。

		はい	いいえ
全体(N=491)		257	234
相談相手	1.上司	76	
	2.知材本部等	95	
	3.外部専門家	67	
	4.共同研究相手先	99	
	5.その他	22	

〔有効回答者数 / 回答者数〕 = 〔 N / 515 〕

その他：自分で判断している、JSTの相談員、共同研究者、同僚など。

問2-6 発明が生まれたものの出願しなかった案件があれば、その理由をお答え下さい(複数回答可)。

		1.出願前の自分の発表により公知と認定された(新規性を喪失していた)ため	2.文献検索や特許の先行技術調査で、すでに先行技術があったため	3.出願準備が面倒だったため	4.出願等に必要費用(出願料や弁理士費用等)が高かったため	5.その他
全体		60	45	107	62	59
所属	大学	60	42	107	61	54
	公的研究機関	0	1	0	1	0
	民間企業	0	2	0	0	5
出願	ある	43	28	53	42	27
	ない	17	17	44	20	32

〔有効回答者数 / 回答者数〕 = 〔 248 / 515 〕

その他：

- 新規性の度合いと特許出願の手間やコストを勘案した時にメリットを感じられないから
- 特許を出願するより学術誌で公表する方が普及において有効と判断したため
- 業務とは関連しない個人的発明に対し、研究所が介入する事に納得がいかなかったため
- その当時の上司の承諾が得られなかったため
- 利益がでることが困難であると判断されたため
- 市場性を考慮して
- 新規性にやや乏しいから
- 特許と無関係の内容
- 特許性が必ずしも高くないと判断された

問2-7 特許を取得することは、自分の研究活動においてプラスであると考えますか。該当する項目の番号をご回答いただくとともに、その理由をお答え下さい。

理由		はい								
		社会的評価(オリジナリティー・プライオリティー)	地位・処遇の向上(業績)	報酬(金銭)	所属機関のため	社会還元	真理追求	研究費や共同研究獲得	研究へのフィードバック	防衛、権利保護
全体		329								
		46	56	24	3	23	0	64	33	23
所 属	大学	312								
	公的研究機関	8								
	民間企業	9								
雇 用	終身	211								
	任期付	106								
	無回答	2								
特許出願	ある	156								
	ない	171								
	無回答	2								
分 野	化学系	66								
	生物系	166								
	工学系	53								
	その他	44								

		いいえ			
理由		メリットがない, 必要性を感じない	手続きが面倒	研究分野が特許にそぐわない	公表優先、学問の公共性
全体		143			
		19	9	24	18
所 属	大学	137			
	公的研究機関	3			
	民間企業	3			
雇 用	終身	108			
	任期付	32			
	無回答	3			
特許出願	ある	42			
	ない	100			
	無回答	1			
分 野	化学系	38			
	生物系	47			
	工学系	20			
	その他	38			

〔有効回答者数 / 回答者数〕 = 〔472 / 515〕

「はい」の具体的回答例：

- 論文数とは異なる意味での社会的評価が期待でき、民間企業との共同研究が促進できると考えるから
- 業績にもなるし、何よりも priority が保護される
- 研究業績のうちの外部評価（社会的貢献）に当たると考えている
- もし、事業化されれば様々な利益が得られる。例え事業化に至らなくとも業績としてカウントされる
- 研究費を確保する手段になると思うから
- 応用化を考える良い機会になるし、展開を考えるヒントになる
- 研究成果の保護が不十分であるため。全世界的に保護されることが望まれる
- 研究の励みになる。目的意識が生まれる
- 指導学生への教育的効果
- 自分の研究活動を円滑にすすめる
- 当然のことだと思います

「いいえ」の具体的回答例：

- 役に立つ特許の出願ほど、発表が制約されるばかりで学問的には益するところがない
- 論文イコール特許であって欲しい。二度手間であるし、結構時間を取られる。論文と違って、いい加減な仕事が増えそうな気がするため
- 事務手続に時間を取られる
- 教員の評価対象にはなるが、迅速な研究発表や学生の指導の上で問題を生じている

- 特許が必ずしも将来的に利益に繋がるとは限らないし、利益を生んだとしても自分の研究活動に経済的に反映されないため、プラスにならない。また、出願費用や労力は現在所属する機関では、個人にかかるため、総合的にプラスになると思えない
- 出願の準備時間、費用を考えると、企業であれば、これらは知財部の仕事であり、その費用でまかなわれる。しかし、大学の場合、全て研究者の自前であり、研究時間、研究費の圧迫となる。結果、特許は大学の研究にとってマイナスしか無い
- 研究テーマが特許を取得するような性格をもっていない
- 研究分野の発展に寄与せず、納税者の利益にもならない
- 論文と違い、特許は予算や政治的圧力で決定される要素が多く、特許件数を業績とすることに不公平感を抱いているため
- 煩雑な作業や利権、その他研究以外にしないでほしいこと、考えなくてはいけないことが増えるので
- 特許化よりは広く知らしめることで、多くの患者さんへ恩恵が及ぶようにしたい

問2-8 あなたにとって、研究開発活動のインセンティブとなるものは何ですか。最も大きいと思うものから上位2つの項目の番号を回答欄に記入してください。

	1位(N=499)	2位(N=496)
研究者としての社会的評価	106	136
機関内における地位・処遇の向上	14	28
報酬(金銭)	15	36
所属機関の社会的評価の向上	8	28
自己の研究成果の社会への還元	125	156
真理の追究	224	94
その他	7	17

回答者数 = 515



問2-9 特許法では、職務発明に関して使用者である企業や大学等が特許権を承継する場合には、従業者には相当の対価の支払いを受ける権利があることを規定しています。あなたはこのことをご存知でしたか。

		知っていた	知らなかった
全体(N = 502)		351	151
雇用形態 (N=498)	終身雇用	243	106
	任期付き	97	52
職 位 (N=502)	教授	105	35
	助教授・講師	127	46
	助手	83	56
	主任研究員	3	0
	部長	1	0
	研究員・技術員	24	12
	外部派遣	1	0
その他	7	2	
研究分野 (N=491)	生物系	146	60
	化学系	84	32
	工学系	53	23
	その他	64	29

〔有効回答者数 / 回答者数〕 = 〔 N / 515 〕

問2-10 大学では職務発明に係る特許権については、従来は個別に帰属していましたが、この場合に当該特許発明の活用が不十分であったこと、近年の体制整備の進展、さらに国立大学法人化といった事情の変化を考慮し、今後は機関帰属を原則とし、各大学のポリシーのもとで組織として一元的に管理・活用を図ろうとする大学が増えています。このことについてご存知でしたか。

		知っていた	知らなかった
全体(N=503)		334	169
雇用形態 (N=499)	終身雇用	235	103
	任期付き	97	61
職 位 (N=503)	教授	101	40
	助教授・講師	119	53
	助手	84	56
	主任研究員	3	0
	部長	1	0
	研究員・技術員	17	19
	外部派遣	1	0
その他	8	1	

		知っていた	知らなかった
研究分野 (N=493)	生物系	135	73
	化学系	80	34
	工学系	51	25
	その他	64	31

〔有効回答者数 / 回答者数〕 = 〔 N / 515 〕

問2-11 あなたの所属機関の職務発明の取扱い（職務発明規程等）についてご存じですか

		知っている	おおよそ知っている	知らなかった
全体(N=500)		102	235	163
雇用形態 (N=496)	終身雇用	75	165	100
	任期付き	27	67	62
職 位 (N=500)	教授	38	72	30
	助教授・講師	40	79	52
	助手	18	64	57
	主任研究員	1	2	0
	部長	1	0	0
	研究員・技術員	0	15	21
	外部派遣	1	0	0
	その他	3	3	3
研究分野 (N=490)	生物系	33	100	74
	化学系	26	59	27
	工学系	25	33	8
	その他	18	40	37

〔有効回答者数 / 回答者数〕 = 〔 N / 515 〕

問2-12 あなたとあなたの所属機関との間で職務発明の取扱いをめぐって問題になったことがありますか。（複数回答可）

1. 問題になったことはない	449
2. 職務発明に該当するか否かの決定をめぐって問題となった	5
3. 出願するか否かをめぐって問題となった	8
4. 対価の額をめぐって問題となった	2
5. ライセンス先の決定をめぐって問題となった	2
6. 発明者の決定や共同発明者間の持分割合の決定をめぐって問題となった	12
7. その他	40

〔有効回答者数 / 回答者数〕 = 〔 488 / 515 〕

その他：

- 有益な特許のみを選ぼうとするがその判断が難しいことから、学内審査に無駄に時間を浪費すること
- いつまでたっても制度がきまらず放置状態
- 出願料の負担者の決定で問題となった
- 職務発明の規定はあっても、担当者がいない。申請予算が全く計上されていなかった。今後もこの状態は変わらないとのこと
- 不明な点が多く、出願を躊躇している
- 他の大学との差別化をするため、どのような基準にするか議論があった
- 所属機関（大学）と共同研究先（大学・公的機関・企業）の間での権利配分
- 卒論学生による発明の扱いについて
- 今までは問題なかったが、今後問題となる可能性はある。
- 業績として評価しないとされ出願は無駄な事との圧力をかけられた
- 所属期間との間でまだ取り扱っていない
- 現在の職場では特許等の研究をなし得ない
- 民間企業と大学との共有特許の外国出願について、経費が問題
- 大学の知的財産管理方針に、教員側から多くの苦情があった
- 実験ノートの取り扱いがきびしくなった
- 大学では守秘義務が保たれるか疑問。学生、業者多くの出入りがあり、教員間でも情報の壁は小さい

問2-13 あなたの所属する機関における職務発明の取扱いについて、不満に思っていることがありますか。（複数回答可）

1. 不満に思うことはない	305
2. 職務発明の取扱いに関する説明手続きについて不満がある	71
3. 職務発明か否かの決定の方法について不満がある	30
4. 出願するか否かの決定の方法について不満がある	25
5. 対価の額に不満がある	27
6. ライセンス先の決定の方法について不満がある	17
7. 発明者の決定の方法について不満	15
8.その他	76

〔有効回答者数 / 回答者数〕 = 〔469 / 515〕

その他：

- 共願規定が役所的
- 数年の内に権利が生かされない場合、権利抹消となる
- 過去に所属していた研究室において発明者の決定法に不満があった

- 口頭説明の後に特許文章化してくれる人材が欲しい
- 経費の半額負担を発明者に強いること。結局はお金がない人は特許を出せない
- 職務発明に係る特許権が原則機関帰属となってからまだ時間が経っていないので、分からない
- 煩わしい、手続きが面倒
- 制度変更に伴い、特許出願を重視するあまり自由な学会発表等に制限が加えられてくる傾向にある点は必ずしも賛成できない
- 特許自体の内容にもよるが、ライセンス先を見つけるという努力はまだあまりされてはいないように見える点
- 出願はしても、その後の中間処理の費用や、登録後の費用の特許庁へ支払う費用の保証がない
- 機関の姿勢を公式に知る機会に恵まれていない
- 研究者と企業との共同研究に関する考え方で不満がある
- 出願内容に関するアドバイスを欲しい
- 「発明」の条件とはなにか、がわからない
- 機関帰属になること
- 発明を扱う事務方の人たちが信用できない
- 学内の制度運用において、不満が少なくなる方向で、今後とも、制度を見直していく必要がある
- 申請する前の事務的諸手続きに時間がかかりめげてしまう
- 企業との共同研究で特許を取得する際に、企業側に著しく不利な条件しか認められない
- 委託している弁理士事務所の無能さに腹が立った
- 説明すらない
- 出願までの時間（学会発表があるので急ぎでお願いしたい）
- 規定はあっても、全く、体をなしていない
- 業績として評価しないとされ出願は無駄な事との圧力をかけられた
- 組織帰属ではベンチャー起業できず、時代に逆行
- 守秘義務をきちんとやる保証が無い（甘い）、よって、発明的研究がやりづらい
- 大学は研究段階では研究者のサポートが不十分であるにもかかわらず成果が出ると実施権を研究者から奪おうとしているように感じる

一元管理体制に対する認知と所属機関における職務発明の取扱いに対する認知：

両方知っている	287
一元管理のみ知っている	39
職務発明規程等のみ知っている	46
両方知らない	124

〔有効回答者数 / 回答者数〕 = 〔496 / 515〕

問3-1 あなたは、これまでに研究機関を移動した経験（転職経験）がありますか。

		1. 転職経験あり	2. 転職しようと思っ たがしなかった	3. 転職経験なし
全体(N=500)		294	26	180
雇用形態 (N=496)	終身雇用	214	16	109
	任期付き	79	9	69
職 位 (N=500)	教授	101	6	35
	助教授・講師	108	8	56
	助手	62	10	66
	主任研究員	3	0	0
	部長	0	0	1
	研究員・技術員	13	2	20
	外部派遣	0	0	1
	その他	7	0	1
研究分野 (N=490)	生物系	125	12	71
	化学系	71	7	36
	工学系	41	3	31
	その他	51	4	38

〔有効回答者数 / 回答者数〕 = 〔 N / 515 〕

問3-2 差し障りのない範囲で、転職前の職場と転職先についてお教え下さい（該当する箇所につけて下さい。複数回答可）

			転 職 先													
			国 内							海 外						
			民間企業	ベンチャー企業	国公立大学	私立大学	公的研究機関	病院	その他	民間企業	ベンチャー企業	国公立大学	私立大学	公的研究機関	病院	その他
転職前	国	民間企業	10	0	46	13	2	1	0	0	0	2	2	0	0	0
		ベンチャー企業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		国公立大学	3	0	108	18	14	5	1	1	0	13	5	4	0	0
		私立大学	3	0	23	3	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0
		公的研究機関	5	0	36	7	5	1	1	1	0	5	1	1	0	0
		病院	0	0	11	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
		その他	1	0	2	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0
	海	民間企業	1	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ベンチャー企業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		国公立大学	2	0	18	1	3	1	0	0	0	2	0	1	0	0
		私立大学	0	0	12	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0
		公的研究機関	1	0	3	0	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0
		病院	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
		その他	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

回答者数 = 294

問3-3 あなたの研究室から転職した研究者・技術者はいますか。

		はい	いいえ
全体(N=504)		242	263
雇用形態 (N=500)	終身雇用	148	193
	任期付き	93	66
職 位 (N=504)	教授	64	79
	助教授・講師	67	106
	助手	80	59
	主任研究員	3	0
	部長	0	1
	研究員・技術員	24	12
	外部派遣	0	1
	その他	4	4
研究分野 (N=494)	生物系	106	102
	化学系	61	54
	工学系	27	49
	その他	44	51

〔有効回答者数 / 回答者数〕 = 〔 N / 515 〕

問3-4 転出先はどこですか（複数回答可）。

		国内の大学	国内の公的研究機関	国内の民間企業	国内のベンチャー	海外の大学	海外の公的研究機関	海外の民間企業	海外のベンチャー	病院	その他
全体		188	61	39	6	51	13	4	0	23	5
雇用形態	終身雇用	117	30	22	1	21	4	2	0	12	3
	任期付き	56	19	10	5	25	9	2	0	8	2
ポ ス ト	教授	47	13	15	0	12	3	0	0	9	1
	助教授・講師	50	13	6	0	13	3	1	0	4	0
	助手	59	14	7	4	11	2	2	0	6	4
	研究員・技術員	21	12	4	2	11	5	1	0	2	0
研究分野	工学系	25	4	5	0	2	0	1	0	0	1
	化学系	48	13	9	2	6	2	2	0	0	1
	生物系	83	2	15	2	34	11	1	0	18	3
	その他	31	14	10	0	7	0	0	0	3	1

回答者数 = 242

問3-5 あなたは海外留学経験がありますか。

		経験あり	経験なし
全体(N=505)		280	225
雇用形態 (N=501)	終身雇用	209	132
	任期付き	68	92
職 位 (N=505)	教授	112	31
	助教授・講師	105	68
	助手	49	90
	主任研究員	1	2
	部長	1	0
	研究員・技術員	8	28
	外部派遣	0	1
	その他	4	5
研究分野 (N=495)	生物系	123	85
	化学系	61	54
	工学系	36	40
	その他	52	44

〔有効回答者数 / 回答者数〕 = 〔 N / 515 〕

問3-6 あなたは海外留学する予定がありますか。

		近い将来予定あり	予定なし	現在のところ予定はないが、将来海外留学したいと思っている
全体(N=490)		11	281	198
雇用形態 (N=486)	終身雇用	7	190	134
	任期付き	4	87	64
職 位 (N=490)	教授	4	97	34
	助教授・講師	4	101	66
	助手	3	54	80
	主任研究員	0	3	1
	部長	0	1	0
	研究員・技術員	0	20	14
	外部派遣	0	1	0
	その他	0	5	3



		近い将来予定あり	予定無し	現在のところ予定はないが、将来開学留学したいと思っている
研究分野 (N=481)	生物系	5	125	73
	化学系	0	67	44
	工学系	1	31	42
	その他	4	54	35

〔有効回答者数 / 回答者数〕 = 〔 N / 515 〕

問3-7 将来、他の機関（企業、大学、公的研究機関等）に移動して研究する予定がありますか。

		近い将来予定あり	予定なし	現在のところ予定はないが、将来的には移動したいと思っている
全体(N=501)		34	249	218
雇用形態 (N=497)	終身雇用	12	182	143
	任期付き	22	64	74
職 位 (N=501)	教授	1	106	34
	助教授・講師	11	79	81
	助手	10	49	80
	主任研究員	1	1	1
	部長	0	1	0
	研究員・技術員	10	8	18
	外部派遣 その他	0 1	1 4	0 4
研究分野 (N=491)	生物系	18	102	87
	化学系	4	61	48
	工学系	9	39	27
	その他	3	42	51

〔有効回答者数 / 回答者数〕 = 〔 N / 515 〕

問3-8 日本全体でみて人材の流動化は進んでいると思いますか。

		進んでいる	どちらとも言えない	進んでいない
全体(N=505)		81	177	247
雇用形態 (N=501)	終身雇用	52	110	179
	任期付き	29	63	68
職 位 (N=505)	教授	25	37	81
	助教授・講師	27	63	83
	助手	21	55	63
	主任研究員	1	0	2
	部長	0	1	0
	研究員・技術員	5	15	16
	外部派遣	0	1	0
	その他	2	5	2
研究分野 (N=495)	生物系	32	76	100
	化学系	18	40	57
	工学系	15	22	39
	その他	16	35	45

〔有効回答者数 / 回答者数〕 = 〔 N / 515 〕

問3-9 あなたが転職を考える際に重視するのは何ですか。

		研究活動の 継続性	研究活動の 自由度	給与	その他の 処遇	その他
全体(N=495)		110	300	23	34	28
雇用形態 (N=491)	終身雇用	72	206	10	24	21
	任期付き	37	91	13	10	7
職 位 (N=495)	教授	37	80	6	9	5
	助教授・講師	35	108	6	11	12
	助手	28	83	8	11	7
	主任研究員	1	2	0	0	0
	部長	1	0	0	0	0
	研究員・技術員	5	22	2	3	4
	外部派遣	1	0	0	0	0
	その他	2	5	1	0	0
研究分野 (N=485)	生物系	57	114	12	14	6
	化学系	23	71	4	7	8
	工学系	14	46	3	8	5
	その他	14	62	4	4	9

〔有効回答者数 / 回答者数〕 = 〔 N / 515 〕

その他：

- 教育・研究をバランスよく展開できるかどうか
- 研究活動に刺激をあたえるかどうか
- 地域
- 上記選択肢すべての条件が現在と同等あるいはそれ以上であることが条件
- 自身の健康、家族に何らかの問題があったとき
- 教育研究機関を重視
- 大学の建学理念と自分の教育・研究思想との一致
- 研究成果が社会に還元されやすいかどうか
- 職務内容（研究以外の職）
- 研究内容（継続性は問わず） 研究環境（体制および設備）
- 研究を行うためのアクティビティーの向上
- 転職先の研究設備と職務義務の少なさ（主に講義数）
- 興味ある分野であるかどうか
- 自分の能力を活かせる職場であるか否か、職場における必要性
- 家庭生活
- 雇用の保障、職務内容、地位
- スタートの研究活動にかかる経費の支給額と給与

問4-1 あなたの所属機関では研究マテリアルなどの取扱いに関するルールがありますか。又、その内容についてご存じですか。

		ルール有り・ 内容知っている	ルール有り・ 内容知らない	ルールは無い	ルールがあるの かわからない
全体(N=495)		54	109	26	306
機 関 (N=495)	大学	42	104	26	298
	公的機関	3	4	0	5
	民間	9	1	0	3
職 位 (N=495)	教授	14	30	11	82
	助教授・講師	16	41	10	106
	助手	10	24	4	98
	主任研究員	1	0	0	1
	部長	1	0	0	0
	研究・技術員	8	11	1	16
	外部派遣 その他	0 4	1 2	0 0	0 3
雇 用 (N=491)	終身	29	73	17	214
	任期	25	36	7	90

		ルール有り・内容知っている	ルール有り・内容知らない	ルールは無い	ルールがあるのかわからない
分野 (N=485)	生物	25	49	16	115
	化学	13	20	4	75
	工学	10	20	4	40
	その他	6	18	1	69

〔有効回答者数 / 回答者数〕 = 〔 N / 515 〕

問4-2 あなたの所属機関では研究マテリアルの帰属はどのようになっていますか。

		個人帰属	機関帰属	その他
全体(N=54)		0	50	4
雇用形態 (N=54)	終身雇用	0	26	3
	任期付	0	24	1
研究分野 (N=54)	生物系	0	23	2
	化学系	0	12	1
	工学系	0	9	1
	その他	0	6	0

〔有効回答者数 / 回答者数〕 = 〔 54 / 54 〕

		個人	機関	その他
大学 (N=42)	全体	0	38	4
	教授	0	13	2
	助教授・講師	0	14	2
	助手	0	10	0
	研究員技術員	0	1	0
	その他	0	1	0

〔有効回答者数 / 回答者数〕 = 〔 42 / 42 〕

「その他」:

- 研究者自身と所属機関に属する
- 研究資金により帰属が異なり、また選択に自由度がある
- 特許では、研究者か所属機関かを委員会で審査する
- 場合による

問4-3 他の機関に移動して研究する場合、現在行っている研究プロジェクトを継続して実施する可能性はどの程度ありますか。

		必ず継続する	継続する可能性あり	異なるプロジェクトを行う
全体(N=475)		132	276	67
マテリアルのルール (N=471)	有る・内容知っている	12	29	9
	有る・内容知らない	26	63	15
	無い	11	14	0
	あるか知らない	82	167	43
立 場 (N=475)	教授	45	73	10
	助教授	55	99	16
	助手	28	85	18
	主任	1	0	0
	部長	0	1	0
	研究・技術員	3	11	21
	外部	0	1	0
その他	0	6	2	
任 期 (N=471)	終身	105	182	31
	任期	27	90	36
分 野 (N=466)	生物系	46	126	25
	化学系	31	59	18
	工学系	24	35	14
	その他	29	49	10

〔有効回答者数 / 回答者数〕 = 〔 N / 515 〕

問4-4 他の機関に移動して研究する場合、現在の所属機関で習得した特許を利用した研究を移動先でも実施する可能性はどれくらいありますか。

		必ず実施する	実施する可能性あり	実施しない
全体(N=458)		63	215	180
研究の継続 (N=449)	必ず継続	46	44	32
	可能性あり	14	153	95
	異なるプロジェクトを行う	2	15	48
職 位 (N=458)	教授	26	58	38
	助教授	21	78	64
	助手	15	61	53
	主任	0	2	0
	部長	0	0	1
	研究・技術員	1	11	21
	外部	0	1	0
	その他	0	4	3
任 期 (N=454)	終身	47	144	116
	任期	16	70	61
分 野 (N=449)	生物系	25	98	68
	化学系	15	51	41
	工学系	12	33	22
	その他	9	30	45

〔有効回答者数 / 回答者数〕 = 〔 N / 515 〕

問4-5 移動先の機関でも使用したいと考える、現機関で取得した特許について、具体的な例があれば、可能な範囲でどのような特許か記入してください。

生物系：

- 細胞のパターニング
- 遺伝子特許
- 方法や装置に関する特許
- 測定方法
- 特異的新規遺伝子
- 疾病治療薬
- タンパク質及び / 又はペプチドの細胞内導入方法 など

化学系：

- 表面界面を実験的に評価する手法
- 物質の合成法、機能
- 薄膜の合成レシピ
- 新物質の合成法
- バイオデバイス

- 分解性新高分子材料
- 発明物質特許の新たな応用の研究
- 物質特許、製法特許
- 試料の作製条件
- 配向性の制御

工学系：

- 材料
- 遠隔会議システム
- 温度計測法
- 新型処理装置
- 基本特許
- 光再構成に関する技術
- X線を応用した微細加工に関する特許
- 生命情報解析
- 表面状態測定法及び測定装置
- ディスプレイ駆動回路・方法
- 権利化したものが研究手法・実験手法としても有効な物である場合

問4-6 他の機関に移動する場合、元の研究機関の研究設備を利用する可能性はどの程度ありますか。

		大いに利用 したい	あまり利用 しない	全く利用しない
全体(N=468)		158	233	77
研究の継続 (N=456)	必ず継続	49	57	22
	可能性あり	90	133	39
	異なるプロジェクトを行う	13	39	14
職 位 (N=468)	教授	49	58	18
	助教授	52	85	29
	助手	42	67	20
	主任	1	1	0
	部長	0	0	1
	研究・技術員	9	20	7
	外部 その他	1 4	0 2	0 2
任 期 (N=464)	終身	113	146	56
	任期	45	84	20
分 野 (N=458)	生物系	61	105	28
	化学系	46	46	15
	工学系	26	32	13
	その他	21	44	21

〔有効回答者数 / 回答者数〕 = 〔 N / 515 〕

問4-7 他の機関に移動する場合、研究機器も一緒に移動して使用する可能性はどの程度ありますか。

		殆ど移転 したい	一部移転する	殆ど移転 しない
全体(N=476)		102	200	174
設備の使用 (N=463)	大いに利用する	56	71	28
	あまり利用しない	35	102	94
	全く利用しない	11	21	45
研究の継続性 (N=464)	必ず継続	57	47	24
	可能性あり	41	128	102
	異なるプロジェクトを行う	3	18	44
職 位 (N=476)	教授	30	56	43
	助教授	43	74	53
	助手	26	60	44
	主任	1	1	0
	部長	0	0	1
	研究・技術員	0	8	27
	外部	0	0	1
	その他	2	1	5
任 期 (N=472)	終身	83	133	105
	任期	19	66	66
分 野 (N=476)	生物	39	85	75
	化学系	29	52	26
	工学系	15	30	27
	その他	17	31	40

〔有効回答者数 / 回答者数〕 = 〔 N / 515 〕

問4-8 他の機関に移動する場合、研究マテリアルを移動先に持参して使用しますか。

		殆ど持参 したい	一部持参 したい	殆ど持参 しない
全体(N=465)		127	186	152
研究の継続 (N=456)	必ず継続	66	38	22
	可能性あり	52	123	92
	異なるプロジェクトを行う	7	22	34
ル ー ル (N=462)	有り・内容知っている	16	22	13
	有り・内容知らない	19	49	37
	無い	13	4	7
	有るか知らない	78	109	95



		殆ど持参 したい	一部持参 したい	殆ど持参 しない
立 場 (N=465)	教授	38	45	42
	助教授	52	62	50
	助手	31	61	37
	主任	1	1	0
	部長	0	1	0
	研究・技術員	2	15	18
	外部	0	0	1
	その他	3	1	4
任 期 (N=461)	終身	96	116	99
	任期	30	70	50
分 野 (N=457)	生物	73	76	47
	化学系	21	53	33
	工学系	10	29	30
	その他	20	25	40

〔有効回答者数 / 回答者数〕 = 〔 N / 515 〕

問4-9 他の機関に移動する場合、元の機関から要望があった場合に研究マテリアルを元の機関にも残していくことに同意しますか。

		すべて残すこ とに同意する	一部残すこと に同意する	残すことに同 意できない
全体(N=459)		242	171	46
マテリアルの 持ち出し (N=455)	持参したい	38	52	36
	一部持参したい	86	93	5
	持参しない	115	25	5
研究の継続 (N=450)	必ず継続したい	44	53	27
	可能性あり	144	103	16
	異なるプロジェクトを行う	50	11	2
ル ー ル (N=457)	ルール有り・内容知っている	32	14	5
	ルール有り・内容知らない	55	44	7
	ルール無い	11	8	5
	ルールがあるか知らない	143	104	29

		すべて残すことに同意する	一部残すことに同意する	残すことに同意できない
立 場 (N=459)	教授	50	54	17
	助教授	86	63	1
	助手	68	46	13
	主任	1	1	0
	部長	1	0	0
	研究・技術員	30	4	1
	外部	0	1	0
	その他	6	2	0
任 期 (N=455)	終身	141	125	39
	任期	97	46	7
分 野 (N=448)	生物	114	73	16
	化学系	47	47	10
	工学系	37	23	7
	その他	41	28	11

〔有効回答者数 / 回答者数〕 = 〔 N / 515 〕